

## 今を生きる

三木 千恵

「今を生きること、熱いところ燃える」

これはやなせたかしさんの「アンパンマンのマーチ」の一節だ。私はこの歌の奥深さを大人になって初めて知った。

モスクワ日本人学校の子供たちは、ここモスクワで「今」を生きている。そして、その一端に自分が関われることに、不思議な縁を感じている。私は、五年生の頃、「自分は何をするために生まれてきたのか」と深く考えていた時期があった。その考えは、今に至るまで変わらず、頭にこびりついている。

モスクワに来たことを、偶然とは感じていない。この地で、日本人学校に通う子供たちに、学ぶ喜びや生きる楽しさを伝えたい。今まで培ってきた「日本語指導」「小中学校での指導経験」や「特別支援での経験」の集大成が、ここモスクワで発揮されるよう、子供たちと向き合っていきたい。周囲の職員や保護者、子供たちからも日々学び続けていきたい。

その学びを深めるために、ロシアでの生活を豊かにすることは欠かせない。私自身が人生を謳歌していなければ、人に生きる楽しさは伝えられないと思っている。だからこそ、モスクワに来てから仕事以外の面も充実させようと精力的に動いている。

一日も早くロシア語を習得し、ロシアの生活や文化を学ぶこと。モスクワの街の素晴らしさを肌で感じることに。それには、自転車は最高だ。誘っていただいた自転車クラブには、教員以外の職種の人たちが多く、世界が広がる思いがする。

さらに、ロシア語の習得を促進するために、何をやろうかと考えていた時に出会ったのが、日本人学校に空手を教えに来てくださった大森先生の教室「松林流空手教室」だ。ロシアで日本の空手をロシア語で学ぶ。なんとも面白いではないか。

オーロラの広がるモスクワの空の下、私は確かに「今」を生きている。